

2019年3月19日

<報道発表資料>

公益財団法人 KDDI 財団

「KDDI Foundation Awards 2018」受賞者を発表 ～KDDI 財団設立 10 周年にあたり創設～

公益財団法人 KDDI 財団（東京都千代田区、理事長 鈴木 正敏 以下 KDDI 財団）は、財団設立 10 周年を迎えるにあたり、ICT の利活用により社会的課題の解決に貢献した業績を表彰する「KDDI Foundation Awards」を創設し、2019 年 3 月 18 日、都内ホテルにて第 1 回目となる同賞の受賞者を発表し、表彰しました。

本賞設立の目的は、ICT が拓く豊かな未来社会の実現を目指し、技術、産業、制度、社会、文化、医療等の研究において、ICT の普及・発展、グローバル化、ICT を利活用した社会的課題の解決など、社会の持続的発展に貢献する優れた業績を表彰するものです。将来新たな価値を創造する可能性のある研究や想像を超えた社会変化をもたらす研究など、波及効果が大きく社会的に大きなインパクトを与える研究を対象に、一般公募を行いました。

多数の応募の中から、審査委員会（審査委員長：森川 博之 東京大学大学院工学系研究科 教授）による厳正な審査の結果、KDDI Foundation Awards 2018 は以下の 2 名に決定しました。

KDDI Foundation Awards 2018 受賞者

理化学研究所 革新知能統合研究センター センター長
東京大学 大学院新領域創成科学研究所 教授
杉山 将（すぎやま まさし）

受賞業績：機械学習の理論構築、アルゴリズムの開発と実世界への応用

概要：現在主流の人工知能システムに用いられている機械学習の技術の数学的な基礎理論と実用的なアルゴリズムの開発、それらを企業等と連携し実世界に応用

国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター 教授
高木 聡一郎（たかぎ そういちろう）

受賞業績：情報技術が社会に及ぼす影響を経済学の視点から捉えた研究

概要：情報技術が企業組織構造の変化を通じて経済全体に与える影響の分析、オフショア・アウトソーシングやクラウドソーシングなどを対象とした統合的な分析への取り組みと産業・社会の発展への関連性を追求

表彰式では、KDDI 財団理事長の鈴木 正敏の挨拶、森川 博之審査委員長による審査講評の後、各受賞者に表彰状が授与され、副賞として賞金 200 万円が贈呈されました。受賞者のスピーチでは、両名による ICT による社会の持続的発展に貢献する研究内容が紹介されました。受賞者の研究成果が社会実装され、豊かな未来社会の実現に貢献することが期待されます。



KDDI 財団とは

KDDI 財団は、ICT による恩恵を社会に還元し国際社会の持続的な発展に貢献することを目的とし、2009 年 10 月に財団法人として設立され、国際協力事業、助成事業、表彰事業および ICT 普及事業に取り組んでいます。2012 年 4 月より内閣府所轄の公益財団法人になり、SDGs（持続可能な開発目標）に対応する取り組みとして、国際協力事業や ICT 普及事業において途上国向けの学校建設、ICT 技術研修、デジタルデバイド解消のための ICT インフラ整備、教育文化支援などに注力しています。学術研究、国際会議や留学生、著書出版などへの助成も中心事業の一つであり、ICT を中心とした科学実験を行う中高生向けの夏期教室やグローバル人材育成支援などの青少年の人財育成活動も強化しています。

問い合わせ先：公益財団法人 KDDI 財団 助成業務部 03-6328-3050